



ごあいさつ

杉循環器科内科病院 院長

杉 健 三



2017年には、地域の医療のみでなく地域社会そのもののあり方に大きな変革をもたらす2つの大きな政策が具体化してくるものと考えます。

一つは「地域医療構想」で、地域の医療提供体制の再編成を行うという施策です。そして二つ目は「地域包括ケア体制」の構築で、医療と介護などがしっかり連携することで在宅医療を推進して行くというものです。

現在、これらの施策はそれぞれが個別に進められようとしています。一方の施策のみで完結するものではなく、相互に密接な関連を持って進められなくては成り立ちません。特に慢性期病床の再編成は、在宅医療における居住環境の整備が不十分で、それを支える人的資源が絶対的に不足している現状のままこれらの施策が推し進められるとすれば地域に大きな混乱をもたらすことは疑いようありません。

当法人は、「医療の実践により地域に貢献する」という理念を将来的に継続して行く上での切実な課題として、これらの施策に対する早急な対応を迫られています。

幸い、循環器医療および透析医療について、杉循環器科内科病院は、質の高い医療を提供することで、地域に不可欠の医療機関としての実績を評価されているものと自負しております。また、長期療養が必要な患者さんに対応するためには、柳川すぎ病院および日の出町すぎ病院を利用できますし、関連の社会福祉法人木犀会が市内3拠点で運営する介護事業と連携して、地域包括ケアシステムへの対応を行っていきます。

しかしながら、当法人は「地域医療構想」あるいは「地域包括ケア体制」への対応は現状では未だ十分とは言えない状況にあり、本年はこれらの政策の中でいかなる機能をどのようにして担っていくべきか、そしてそのために整備していくべき多くの課題をどのように解決していくべきなのかを早急に決定し実行していかなくてはなりません。そのためにも職員一丸となってこの状況への対応策を練り上げ実行して行きます。

急性心筋梗塞症と 経皮的冠動脈形成術

副院長 循環器内科 大塚 頼隆



心臓に血液を送る血管「冠動脈」が動脈硬化で狭くなり、冠動脈狭窄が進むと心臓の血流が低下し、虚血（血液が足りない）状態になると狭心症といい、冠動脈の動脈硬化が突然破裂し、血栓（血の塊）を形成し冠動脈が閉塞すると、心筋壊死を引き起こし、その状態を心筋梗塞といいます。狭心症、心筋梗塞ともに虚血性心疾患に分類されますが、病態の成り立ちは動脈硬化をベースにしていますが、心筋梗塞の場合は血栓も関与しています。また、心筋梗塞から心筋壊死は心機能低下のみならず、いろいろな合併症を引き起こし、死亡する可能性はある病気ですので緊急の適切な治療を要します。

日本人の死因第2位の心疾患、その中でも心筋梗塞は25%強を占め、年間約4万5000人が亡くなっています。日本での心筋梗塞の発症者数は年間約15万人とも言われ、高血圧、脂質異常症、糖尿病など動脈硬化を引き起こす生活習慣病の増加により未だ克服できていない病気です。ですから、動脈硬化を促進させる因子を持っている人や喫煙者は要注意です。加齢で動脈硬化は促進されるので、男性は45歳、女性は55歳以上は気を付ける必要があります。

自覚症状は約7割が胸の強烈な痛みを自覚します。肩や喉、腹部の奥が痛くなる人もあります。高齢者、糖尿病患者では症状が出にくい傾向があるので注意が必要となります。

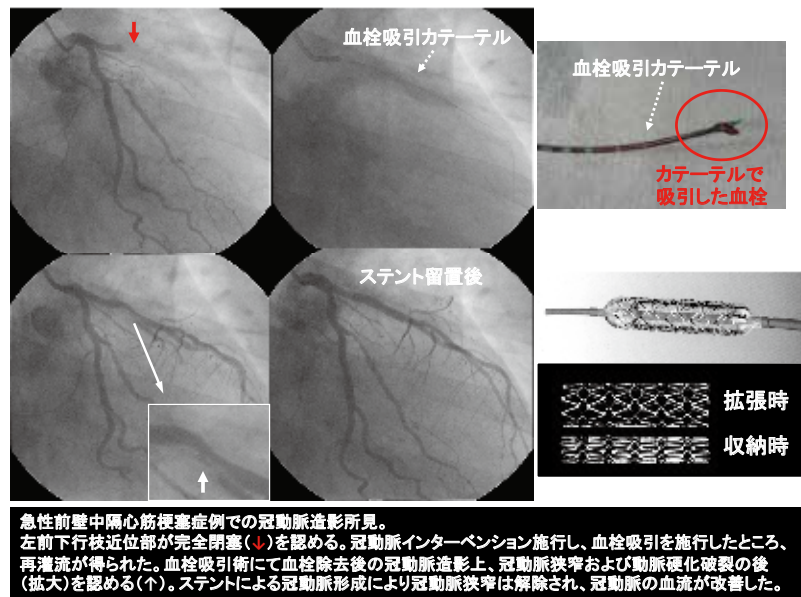
心筋梗塞は血管が詰まり心臓の筋肉が壊死した状態、早期の治療が重要

心筋梗塞は、以前から症状がある方が半分、突然発症する方が半分です。以前から症状がなくても、いつもとは違う（冷汗を伴うような激しい）痛みを自覚したら、急性心筋梗塞の可能性あります。心臓に血液を送る血管「冠動脈」が詰まって、酸素不足・栄養不足で心臓の筋肉が壊死した状態を心筋梗塞と言いますが、血管が一旦つまると、30分で心筋の壊死が始まり、6時間から12時間経つとほとんどの心筋が壊死してしまいます。ですから、心臓の筋肉を少しでも助けるためには、緊急の治療が非常に重要になります。

治療は内科的にできる経皮的冠動脈形成術が効果的

院外心肺停止患者の統計から推測すると、心筋梗塞全体の死亡率は20～30%です。一見、死亡率が高いように思われますが、実は病院に到着後の死亡率は約5～10%程度になります。病院にたどり着き、適切な処置を受ければ生存率はアップします。その治療法が経皮的冠動脈形成術です。全身麻酔も必要ない内科的に行う手術になります。血栓を除去し、動脈硬化で狭くなった部分をステントと言われる道具で広げてあげる治療法です。血管が詰まると、時間が経てばたつほど心筋の壊死は進展するため、心筋の壊死の進展を抑制するためには早期の治療が必要になります。一般的に、発症2時間以内の治療が望ましいと言われています。普段から「おかしいな」と思うことがあれば、早めに専門医に受診し、また胸の強烈な痛みが30分以上続くなど、心筋梗塞が強く疑われる場合は、すぐに

救急車を呼びましょう。杉循環器科内科病院では、循環器内科専門医が24時間365日対応していますので、いつでもご相談ください。



第6回 透析セミナーに参加して

医療機器管理室 森田 裕貴

平成28年9月10日社会福祉法人木犀会すぎの木で開催された、第6回杉循環器科内科病院透析セミナーに参加しました。患者さん30名、ご家族7名と多くの方に参加して頂きました。

今年のセミナーのテーマは「体重管理について～セルフコントロール～」でした。駐車場係や体重管理に関するポスター作り、講演の資料作りなど、それぞれ役割分担しセミナーに向けて準備をしました。中野先生から「ドライウェイトと体重管理」の講演、看護師はドライウェイトや水分について、理学療法士が簡単にできる運動の実技、管理栄養士が塩分と水分の関係について講演しました。みなさん真剣に聞かれていて、「ドライウェイトや水分管理について分かりやすい講演だった」「記念品でもらった目盛付きのコップで水分管理がしやすくなった」と透析で重要な水分管理に関する知識も深まったようでした。今年の私の役割は司会でした。本番は少し緊張しましたが、みなさんの協力のおかげでスムーズに進行し無事にセミナーを終えることができました。

来年は、今年の良かった点や反省点を活かし、患者さんのためになり楽しく学べる内容を考え、より良い透析セミナーにしたいと思います。患者さんの透析ライフが充実したものになるように少しでも役に立てればと思います。



運動教室



リハビリテーション室 宮本 将也

平成28年8月17日より池田先生の御指導のもと、運動教室を始めることとなりました。

池田先生のサルコペニア・フレイル外来を受診された方々を中心に、毎週水曜、木曜に予約制で13時30分より2時間程度、社会福祉法人木犀会すぎの木の1階地域交流センターにて開催しています。各ご家庭で運動を継続して頂くことが目的で、内容としては、看護師によるバイタルサインのチェック、理学療法士・作業療法士によるストレッチ・筋力トレーニング・有酸素運動(自転車エルゴメータ)歩行のチェック(歩幅・歩行スピード・歩行のアドバイス)などを体験して頂いております。池田先生監修のもとに当院独自で作成した運動手帳の配布も行っており、運動の継続に役立っているようです。おかげさまで、参加者の方からは「ぜひまた参加したい」「家で運動を頑張りたい」との声が多く聞かれます。

これからもたくさんの方々にご参加頂き、運動を始めるきっかけになればと思っています。



指導中の様子



私の趣味

パッチワーク

透析室 二宮 裕恵

25年くらい前から独学でパッチワークを始めました。休みの日には、椅子に座りラジオや音楽を聞きながら、時には一日中パッチワークに没頭してしまう時があります。一針一針思いを込めて縫い上げた作品は、手作りならではの温かさを感じます。時折、窓から眺める遙か彼方の普賢岳が、今日もくっきりと顔を出しています。“がんばれー”と励ましているようで、心穏やかになります。ゆったりとした時間の流れの中で、私は針仕事を今後も続けて行き、私の癒しとなることでしょう。ピンクのタペストリーはハワイアンキルトでエンゼルランペット制作に2週間ほどかかりました。クリスマスツリーは孫へプレゼントしました。



サガン鳥栖選手 表敬訪問

看護師 山本 康平



平成28年11月25日当院にサガン鳥栖の選手（豊田陽平選手、赤星拓選手、石川啓人選手、田川亨介選手）がスポンサー挨拶回りで表敬訪問を行いました。

みなさんご存知のように当院はJリーグ部プロサッカーチーム、サガン鳥栖のスポンサーとなっています。

スタジアムでのピッチスポンサー紹介時に当院の名前をコールされる際は、私も職員の一員として間接的にチームを支えていることが誇らしく思います。

2016年シーズンは監督交代もあり特に前半は成績があまり奮わなかったのですが、後半には盛り返してきたので、来季は戦術の浸透・戦力の強化により更なる飛躍を遂げることでしょう。

ホームスタジアムはJR鳥栖駅目の前徒歩圏内です。これを読んでいるあなたも気分転換にちょうど良いので、来シーズン観戦するのはいかがでしょうか。

杉の子 子育て 支援会



杉の子保育園で、
英語を楽しく学んでいます！

リハビリテーション室 杉野 都

当院には、子供をもつスタッフが安心して働けるよう、「杉の子保育園」が併設されています。幼稚園（指定園から選択）との二重保育も可能で、0歳から6歳までの子供たちが毎日楽しく通っています。4年ほど前より保育園を利用しているスタッフの要望もあり、英語教育が始まりました。明るく日本語も堪能なアメリカ出身の先生は、子供達に大人気！ちょっぴり人見知りする子供もいますが、それも成長の証し。楽しいレッスンを受けていると、自然に涙も止まり、笑顔になります。「今日の天気は？」と尋ねると「Sunny～（晴れ～）」と答える子供達には驚きです。ますます国際化が進み「隣の席は外国人」、そんな未来がおとずれるかもしれません。レッスンは少人数制で、年齢に合わせたクラス編成や、絵本・塗り絵・ゲームなどを楽しく取り入れて行われています。小さな頃からネイティブな発音に触れ、楽しいひと時を過ごすことができ、子供たちの将来にちょっぴり期待しています。



ビーチボールバレーに参加して

看護師 松井愛里香
岡 菜摘



今回、私達は初めて、ビーチボールバレー大会に参加させて頂きました。普通のバレーボールとは“ルール”や“ボール”などが違い、始めは慣れるのに大変でした。しかし、試合前には週に一回の練習があり、先輩方がルールや試合形式など詳しく教えて下さり、しっかりと練習することが出来ました。このビーチボールバレーの試合をきっかけに、先輩方とも交流の輪を広げるいい機会になり、とても嬉しく思います。そして、パート内で優勝でき、いい思い出となりました。



職員旅行

in
伊王島

リハビリテーション室
江口 智里

平成28年11月26日～27日、5つのコースから長崎を選んだ気の合う職員20名で伊王島の旅へ行ってきました。天気は曇りから雨の予報でしたが、なんとか傘をささずにすみしました。

貸し切りバスが病院駐車場から祐徳稲荷神社へ走る中、今更ながらの自己紹介でしたが、みなさんの趣味を知れてグッと親近感が湧きました。私は祐徳稲荷神社で御朱印帳を購入したので、来年は御朱印集めで大牟田の神社を巡りたいと思います。

ペンギン水族館のペンギン達は、かわいい姿からは想像できない豚のような鳴き方をするのでしばらく鳴き声とは気が付かないほどでした。久しぶりのグラバー園では、坂道に苦労する歳になったと実感しました。世界第2位の大きな客船やイージス艦も見られ、海町ならではの体験ができて嬉しかったです。

2日目の軍艦島は歴史に詳しくない私でも、ガイドの方の説明で当時の島の生活を思い描けました。クルーザーで島を一周する間に見える建物の間隔は都会のマンションのようで、地下もあれば屋上もある100年前のコンクリート建物とは思えないものでした。三菱の幹部職員の住むアパートは島で一番高い場所にあり、今も昔もお金持ちは高い所に住めるのだと確信しました。美味しい料理に展望温泉、全てが良い思い出になる旅でした。



平成28年10月15日、糸島への日帰り職員旅行へ参加させて頂きました。入職してまだ日が浅いので、当日のバスに乗るまで「皆さんの中に馴染めるかな」と不安な気持ちで一杯でしたが、バスが出発すると近くの方から、お菓子やみかんを頂き気持ちも和み、ガイドさんの話しも面白く、道中を楽しみながら糸島へ向かうことが出来ました。

糸島では始めに、日本一の売り上げを誇る『伊都菜彩』で地元の食料を購入しました。次にパワースポットでもあり、最近嵐のファンに人気があると言われている櫻井神社で参拝し、その後、海の中に“ドン”と鎮座する夫婦岩で夫婦円満を願ってきました。昼食は海沿いのお店で、海を眺めながらのイタリアンビュッフェでした。景色が良く、お料理もとてもおいしかったです。昼食後『つまんでご卵ケーキ工房』では、自宅で待つ娘たちへのお土産に、ロールケーキとまたいちの塩の「塩プリン」を購入しました。

私にとっては、職員旅行も糸島観光も、観光バスで出かけることも全て初めての事でしたので、とても有意義な楽しい一日を過ごすことが出来ました。ありがとうございました。

in 糸島

看護助手
小柳 三和



職員旅行

in 軍艦島

検査室
長 祐輝

平成28年11月6日、今回私は、職員旅行で長崎へ行ってきました。最初にグラバー園に着いて、歴史ある建物や、高台からの長崎の綺麗な海を見ることができました。お昼は、長崎皿うどんとチャンポンのセットを頂き、本場の味を堪能しました。

旅行のメインである軍艦島クルーズでは、世界遺産に登録された建物を見ることができて感動しました。また、実際に軍艦島に住んでいた方がガイドをしてくださったので、当時の様子などを聞くことができ、帰りにはお土産も頂き、貴重な思い出となりました。

日帰りの長崎旅行でしたが、心も体もリフレッシュでき、充実した1日でした。



平成28年11月18日より2泊3日の職員旅行で屋久島に行ってきました。

屋久島は鹿児島島の南に位置する島で、日本では7番目に大きな島ですが車だと約2時間で一周できるほどの島です。しかし、その約9割が森林であり中央にある日本百名山の一つ九州最高峰の宮之浦岳をはじめ、深い森の中には屋久杉を代表とする、ここでしか見ることのできない多くの動植物が生息する自然豊かな場所です。

私は、2日目の自由行動の日程を利用し、縄文杉トレッキングに行ってきました。元々は屋久杉の伐採のために使用されていたトロコ道をはたすら歩き、川にかかる橋をいくつも渡り、陽の光で見たことのない程鮮やかにかがやく苔むした森を歩き、4時間ほどで今回の旅の目的「縄文杉」に出会うことができました。日常から遠く離れた森の中で佇む大樹を目の当たりにして、長い道のりを歩ききった達成感とその圧倒的な存在感で大きな感動を覚えました。

今回の旅行で普段あまり接する機会の少ない職員とも交流を深めることができ、たいへん有意義な職員旅行とすることができました。このような貴重な経験を今後活かし、新たな気持ちで日々の業務に励んでいきたいです。

in 屋久島

放射線室
内野 慎也



職員旅行

in 小豆島

看護部 外来
西田 曜子

平成28年12月10・11日で1泊2日の小豆島職員旅行に参加しました。

両日とも天候に恵まれ、男性6名、女性6名の総勢12名と少人数での旅行でした。

新大牟田駅から岡山まで新幹線で移動しました。岡山からは貸切バスで新岡山港へ移動し、昼食後、フェリーに乗船し土庄港に着港。移動に約6時間半かかり、ようやく小豆島に足を踏みいれました。道中、腎センター坂井師長が、クイズを交えながら、小豆島のガイドをして下さり、他部署の職員の方々と楽しく話す機会ができて、親睦を深める事ができました。

土庄港から貸切バスでオリーブ園に行きました。オリーブ園のガイドさんが5分程、園内を一緒に歩いて解説しながら案内していただき、みんなで記念撮影をしました。お土産売り場では、「大牟田市でも、このように何か特産品を利用して収益をあげたいのに」という声がかかるくらい、化粧品、食用油、ドレッシング、お菓子、素麺など、特産品のオリーブを使った様々な商品がたくさんあり、それぞれがショッピングを楽しみました。

16時過ぎにホテルに到着し、18時から宴会会場でみんなでおいしく夕食をいただきました。お腹が満たされてきたところで、隣の食事会場で歌っている、よその宿泊客に負けじと、職員会会長の徳永さんを筆頭にカラオケで大いに盛り上がりました。夕食後は、全員でホテルに隣接している娯楽施設で、卓球をして楽しみました。

翌日は、小豆島島内観光のため、まず寒霞渓に向かいました。ロープウェイでゆっくり下山しながら、紅葉見物しました。紅葉の見ごろが終盤で、落葉している樹木もありましたが、ロープウェイからの景色は、遠くに海も見えて、見事でした。その後、海沿いに隣接する二十四の瞳映画村を見学し、戦後の小学校の様子や、作者の壺井栄さんの生涯や人柄について触れることができました。最後にマルキン醤油の蔵元で製造過程を見学し、マルキン醤油を使った佃煮やお菓子など、いろいろなお土産を買いました。

今回の職員旅行は12名と少人数で、片道半日がかりの移動だったため、移動の時間中、普段接することが少ない部署の方々と交流を図ることができ、また小豆島の絶景を堪能できた楽しい職員旅行でした。

今後も、職員旅行に参加していきたいと思います。

